

九条の輝きを世界へ

医療九条の会・北海道 会報 第15号

発行：2011年8月 発行責任者：猫塚 義夫

講演会「原発事故と健康被害を考える」を開催

北海道がんセンター西尾正道院長が講演



講演会「原発事故と健康被害を考える」が7月30日に札幌テレビ塔ホールで開かれ、福島からの避難者も含めて、200人の市民が参加しました。

講演に立った北海道がんセンターの西尾正道院長は、医療九条の会・北海道の当初からの会員であり、「311」以降、子どもたちの健康を守るために積極的に発言され、全国に先駆けてホールボディカウンターによる検査の受け入れを行っています。

西尾院長は、講演を通じて、情報が的確・迅速に公表されず、内部被爆による危険が過小評価（無視）されている事態に、注意を喚起しました。「福島原発事故によって大気中・海洋に放たれた膨大

な量の放射性物質が空気や魚の食物連鎖を通じて人間の体内に入ってきており、福島県民に限らず、日本人は今後、内部被曝線量が増えていくことを覚悟する必要がある」と強調しました。

さらに、コントロール不可能な原発は縮小しなければならないが、中国・インドをはじめとしてアジア各国での大規模な原発建設は避けられず、「人類は放射性物質とのたたかひの時代に入る。放射線による人体への影響を医学的に明らかにし、健康被害をくい止めるための研究を原爆被害も原発事故も経験した日本が先頭に立ってすすめていかなければならない」と講演を結びました。



講演のあとで、福島から札幌へ避難している方の発言がありました。須賀川市から東区へ避難している小河原律香さんは、3歳のお子さんの手を引きながら「5月にこの子が突然鼻血を出し、いてもたってもいられずに避難してきました。福島にいても正確な情報が伝わらず、不安は募るばかり。健康で心豊かにくらしさせていけるように、原発をなくしてほしい」と訴えました。

思いを語る、小河原律香さんと娘さん

土壌、海洋汚染で内部被ばくも…



「政府、東電は正確な情報を出すべきだ」と訴える西尾正道医師

福島第一原発事故の放射線による健康被害が懸念される中、国立病院機構北海道がんセンター（札幌）院長で、放射線治療が専門の西尾正道医師の講演会が30日、札幌市中央区の札幌テレビ塔ホールで開かれた。医療几条の会・北海道の主催で約200人が聞き入った。（升田一憲）

「放射線被害の研究重要」 道がんセンター 西尾医師が講演

食物連鎖で人の口に入る。魚の汚染は重い問題だ」と指摘。放射線は、放射線を出す能力が半分になる物理的な時間でしか減らないため、「日本人は土壌、海洋汚染により、内部被ばく線量が増えることを覚悟する必要がある」と述べた。仮に日本が脱原発に進んでも、中国やインドでは原発の増設が不可避とし、「将来は放射性物質との闘いの時代になる。放射線による健康被害を医学的に確立するためにも、日本が先頭に立って研究し続けなければいけない」と話した。

北海道新聞

8月1日付け夕刊

講演会「放射線被曝の危険性～子どもと労働者の被ばく」に協賛しました

福島から親子のサマーキャンプを受け入れた、「福島の子どもたちを守る会・北海道」が主催した講演会（8月13日 講師は、大阪阪南中央病院副院長の村田三郎医師）に協賛しました。

翌8月14日付けの北海道新聞に報道されました。

**放射線被ばく
安全な量ない**

大阪の病院副院長講演

札幌

放射線の体への影響などについて講演する村田三郎氏

原発労働者の被ばく「安全な量ない」と指摘。問題などに関わってき、特に子どもについて、た阪南中央病院（大阪府松原市）の村田三郎副院長の講演会が13日、札幌市内で開かれた。村田氏は福島第一原発事故の影響による放射線の影響について「放射線被ばくに安全な量はない」と指摘。

市民団体「福島の子どもたちを守る会・北海道」の主催。村田氏は、原発での被曝者への聞き取り調査と、原発での労働で被ばくした労働者の調査を行ったところ「原発内で低い放射線量を受けながら長期間働いた人と、広島の前爆で被曝した人では、同じような健康被害が起きている」と強調。低い放射線量でも何らかの健康被害が起きている可能性があるとした。

原発事故後、国が設定した水道水や食品の暫定基準値については「慌てて作ったもので、専門家がいちいち議論を繰り返している」とも述べた。

村田氏は「新たな被ばくをしないためには、原発を含め原発を止めるし、汚染地域での健康被害を発見するため、国、東京電力の費用負担による健康診断を数十年にわたって実施するよう訴えた。



（佐藤宏光）

お知らせ*****

「311」以降、被災者や原発事故被害者の苦悩をそっちのけに、政争が続いています。今こそ、憲法に軸足をおいて、声を挙げていくとき時ではないでしょうか。

「学びの秋」「たたかひの秋」にふさわしいとりくみが各地で計画されています。それぞれからご案内をいただきましたので、みなさんにも紹介させていただきます。

(詳しくは、同封のチラシをご参照下さい)

九条の会呼びかけ人 澤地久枝さん講演会

勤医協苫小牧病院開院30周年記念講演会として開催されます。澤地さんご自身は苫小牧は初めてとのことで、大変楽しみにしているというお話しです。今度来道されるのはいつになるのか、わかりません。是非この機会においでください。

9月24日(日) 14:00～ 苫小牧市民会館大ホール

911から10年、311から半年 ～ イラクとフクシマをつなぐ

世界を揺るがした「911」そして「311」から節目にあたる日に、イラク・フクシマ双方で支援活動に当たっている佐藤真紀さんのお話を聞きます。

9月11日(日) 10:00～ 北海道クリスチャンセンターホール

さよなら原発1000万人アクション in 北海道

九条の会呼びかけ人である、大江健三郎さんや澤地久枝さんも呼びかけに加わっている行動です。全国のとりくみに呼応して、札幌でも集会・デモが計画されています。

9月18日(日) 10:00～ 旧厚生年金会館ロイヤルホール

